

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
 【部門区分】第 5 部門第 3 区分
 【発行日】平成 19 年 8 月 9 日 (2007.8.9)

【公開番号】特開 2007-120862 (P2007-120862A)
 【公開日】平成 19 年 5 月 17 日 (2007.5.17)
 【年通号数】公開・登録公報 2007-018
 【出願番号】特願 2005-313751 (P2005-313751)
 【国際特許分類】

F 2 4 F 13/30 (2006.01)

【F I】

F 2 4 F 1/00 3 9 1 A

【手続補正書】

【提出日】平成 19 年 6 月 22 日 (2007.6.22)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

冷媒と空気との熱交換で冷暖房用のエアを生成する熱交換器が、内部に風路を形成する筐体の前面部に取り付けられる空気調和機であって、

前記筐体の左右に設けられ、上部に穴部が形成された壁板と、

前記熱交換器の左右に設けられた側板と、

この側板に形成され、前記穴部に係合する引っ掛け部と、を備えたことを特徴とする空気調和機。

【請求項 2】

前記穴部より下部で、前記各壁板の一方に形成されたリブと、

前記側板の一方に形成され、前記リブを受け入れて拘束するリブ用穴と、を備えたことを特徴とする請求項 1 に記載の空気調和機。

【請求項 3】

前記引っ掛け部は重力方向に引っ掛かるような掛かり代を有する

ことを特徴とする請求項 1 または 2 に記載の空気調和機。

【請求項 4】

前記熱交換器で生成された冷暖房用のエアを室内に送り出すためのファンと、

前記壁板に設けられ、前記ファンの駆動軸を挿入支持する軸用穴とを、備え、

前記リブを前記軸用穴の近傍に形成した

ことを特徴とする請求項 1 ～ 3 のいずれかに記載の空気調和機。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 1 1

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 1 1】

本発明に係る空気調和機は、冷媒と空気との熱交換で冷暖房用のエアを生成する熱交換器が、内部に風路を形成する筐体の前面部に取り付けられる空気調和機であって、筐体の左右に設けられ、上部に穴部が形成された壁板と、熱交換器の左右に設けられた側板と、この側板に形成され、穴部に係合する引っ掛け部と、を備えたものである。

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0012

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0012】

本発明に係る空気調和機によれば、上部で、側板に形成された引っ掛け部を壁板に形成された穴部に係合させて熱交換器を筐体に取り付けるので、新たな機能部品を別に設けることなく、簡易に熱交換器を取り付けることができるとともに、熱交換器の上部において、筐体との隙間の発生を防止し、着露を防ぐことができる。